



# 登別市誕生秘話

〔久居町からの親書と『新市制実現期成会』〕

昭和43年1月、三重県久居町（のち久居市、現在は津市）長から登別町長に1通の文書が送られてきました。その内容は「全国で3万人以上の人口を有する町は32。地方自治法では、市の昇格基準は5万人以上であるが、市の中には3万人を割っているところもあるので、この際全国的に大同団結をして共に市制実現運動を展開しようではないか」という趣旨のものでした。

この親書を受けた全国32の町は同年5月『新市制実現期成会』を結成し市制実現に向けて運動を展開することになりました。道内では、登別、亀田、恵庭、羽幌が参加し、関東以北では、登別町が期成会の副会長となつて、国会議員賛同署名運動の展開や陳情などの運動を強力に展開しました。

その成果があつて、昭和44年の『第61回国会』には「人口3万人以上5万人未満の市昇格に関する地方自治法改正案」が上程され、6月に衆議院を通過。法案成立は確実視されていきました。

しかし同年12月、衆議院が突然の解散。法案は不成立となり、一同は涙をのむこととなつたのです。1年をかけて取り組んだ運動が水泡に帰し、振り出しに戻されてしまったショックから『市昇格は幻となるのでは』と思われていました。

しかし、まだ望みを捨てきれない登別をはじめとする期成会の会員は、次回国会での法案成立に向けて、運動を再開するのです。そして、昭和45年3月、これまでの努力が実を結ぶときがきます。

総選挙後の『第63回国会』に同法案が再び上程され、3月2日に衆議院を通過、同4日に参議院で可決・成立し、町民の大願であつた『登別市』がついに誕生することとなつたのです。